

発行所

静岡県高等学校障害児学校教職員組合
静岡市葵区駿府町1-12
高教組新聞編集委員会
http://www.s-koukyousho.jp/
e-Mail info@s-koukyousho.jp
TEL (054) 254-6900
FAX (054) 254-0814
Facebook:「静岡高教組」で検索

第458号
2020年
9月30日

高教組しんぶんは組合費とカンパによって発行されており、全教職員に配布しています

あなたも高教組へ

2面・育休復帰応援カフェ
・性教育基礎講座



静岡県人事委員会へ
要求書を提出

要求書を提出

8月28日、高教組は、県人事委員会に対し、給与水準の引き上げなどを求める要求書を提出しました。
新型コロナウイルス感染症の影響で、民間企業の月例給に関する調査日程が大幅に遅れているため、人事院勧告が10月以降となりそうです。

この間明らかになった、医療、介護、福祉、教育、行政などの公務・公共体制の抜本的な拡充・強化を求めました。

9月5日、子どもと教育を考える静岡県民会議が主催し、すべての子どもたちにゆきとどいた教育を求める「教育全国署名」静岡県スタート集会が開催されました。

25日・29日に行われ、その後局長交渉、人事委員長交渉を行います。
県教育委員会へは、9月25日に賃金確定に向けて要求書を提出しました。
教育長交渉時に手渡す「給与及び勤務条件の改善を求める署名」へのご協力をお願いします。

子どもたちは自分で固有の力を引き出していくもの。教育者には、「健全の中にある健全、不健全の中にある健全」を見分ける力がなければいけない。
川口さんのお話を聞き、いま学校は、子どもと共に

「1年単位の变形労働時間制」を考える
スケジュールに固執する文科省
文科省は7月17日、都道府県・政令市の9月議会で「1年単位の变形労働時間制」導入に向けての条例化と来年4月の法施行のための「省令」を告示、「指針」などを通知しました。

その内容には、重大な問題があります。
第1に、「学校現場」には適用できない制度であることです。
第2に、「導入先にありき」ですすめていることで、国会の付帯決議で、制度導入の前提条件は、「在校等時間の上限遵守」とされましたが、「省令」には書き込まれていません。また、「指針」は「在校等時間の把握にあたって「虚偽の記録等」があつてはならない」として、調査では、「虚偽の記録」の強制や、「時短ハラスメント」が横行している実態が報告されています。明らかに「指針」に定められた措置が講じられていないにもかかわらず、条例化や制度の「導入」をすすめることは、国会審議や決議にも反する行為です。

第3に、国会答弁で示された条例作成の手順について、「省令」は一切触れず、教職員組合との交渉事項であることが記載していないことも問題です。



また、諸手当改善、人事評価制度の賃金リンクの「効果」検証、多忙化解消、会計年度任用職員（非常勤講師ほか）の勤務条件改善、定年延長問題

学習会では、長年子どもに生じる問題に取り組み、現在スクールソーシャルワーカーとして活躍する川口正義さんのお話を聞きました。

幸福度が低い日本の子どもたちが、コロナ感染による失業や「ステイホーム」で、貧困、DV、不登校などがさらに拡大し、家庭に居場所がなくなったり、虐待や性的被害を受けたり、犯罪に巻き込まれる子ども、それでもSOSが出せない子どもが急増している。生活保護も児童相談所も人手不足で手が回らない状態だと、具体例を交えて子どもたちの危機的な状況を紹介。



「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

主張

9月3日、文科省は「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」を公表しました。以下はその骨子です。

①休日の部活動の運営を地域のスポーツクラブや芸術文化団体に委ね、教員を休日の指導から解放する

②休日の指導を希望する教員は、兼業許可を得た上で地域活動の二環として従事する

23年度から全国展開を目指す
この案に対しては、「休日だけでも解放されるなら歓迎」という声がある一方「平日を放置したままでは無意味」「平日と指導者が異なることで混

「まずは休日から」。
文科省の「部活動改革」をどう見るか
23年度から全国展開を目指す
この案に対しては、「休日だけでも解放されるなら歓迎」という声がある一方「平日を放置したままでは無意味」「平日と指導者が異なることで混

「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

「教師の献身的な勤務に支えられており、もはや持続可能な状態にあるとは言えない（いづれも上記改革案より）ことは明白です。教育現場の多忙化を考えると、やはり改革は「待たなし」の状況です。文科省がこの改革を「ゴールではなくマイルストーン（中間目標）」と位置づけた意欲と姿勢は果たして本物か。注視するだけでなく積極的

視座

学生たちが「イル、タノ」と教室で声を上げ、ナチス式の挙手をする。学生たちの格好は、白いシャツにジーンズ。シャツの裾はジーンズにイン、今どきではないスタイル。柄シャツを着た学生は、前に出されて、全員に糾弾されたばかりだ。この場を仕切ったのは、校長は、学生たちを率いて、キャンパスに出る。好奇心の目に晒されるが、学生たちはどこか誇らしげだ。そして、ベンチでいちゃつくカップルを見つめ、全員で「リアル」を退散させる。そして、また誇らしげに、教室に帰っていく。これは甲南大学の10年続いている「田野大輔先生の授業」の一場面。ファンズを疑似体験することで、その本質に迫ろうという試み。二百五十人で同じ格好をして、同じ行動をしようと、どんな理不尽なことでも、自分たちが正しいと思うようになり、同じ行動をしない学生に怒りも湧く、とは学生の言葉。権威に従って行動すると、必然的に暴力的になるそうです。上からの命令で動き、上の意思を代行するだけの「道具的状况」に陥るからです。まるで、職務に忠実で真面目な小市民アイヒマンが、多数のユダヤ人をガス室に送る業務に勤しみ、罪悪感など一切持たなかったように。二十世紀は民主主義がファシズムに勝った世紀。しかし、二十一世紀の今も民主主義の実践は困難です。「今日は授業するかどうか、多数決をとりますか」ということを教師が言ったら、生徒の授業は成り立たず、生徒の学力はカタ落ちでしょう。▼教室にいる生徒の人数が少なれば少ないほど、一人ひとりの声を聞き、より民主的になり、人数が多ければ多いほど、全体を重視し、より専制的になるのは、教師なら誰でも経験すること。そう、少数者道。コロナ対策への早道。コロナ対策への早道。数学級実現が一番、少人数への投資は国の未来への投資。ノリスク・ハイリター。さ、声を上げ続けよう。

仕事と育児を両立させるスキルより、「助けて!」というスキルを磨こう

育休復帰応援カフェ

8月1日に第5回目の育休復帰応援カフェをオンラインで開催しました。

今回は、育休から復帰した参加者から、子育てしながら働くうえでの、生の声を聞くことができました。また、「こんな場合はどうするのか?」という具体的な状況を想定した質問が多く、仕事復帰に向けての不安や子育てをしながら仕事を続けるうえでの悩みや知りたいことがたくさんあることがわかりました。

育休短時間勤務や部分休業など、権利について、具体的な中身や手続きの仕方など知らないという声も聞かれました。また、復帰に向けての不安や子育てをしながら仕事を続けるうえでの悩みや知りたいことがたくさんあることがわかりました。

育休短時間勤務や部分休業など、権利について、具体的な中身や手続きの仕方など知らないという声も聞かれました。また、復帰に向けての不安や子育てをしながら仕事を続けるうえでの悩みや知りたいことがたくさんあることがわかりました。

育休短時間勤務や部分休業など、権利について、具体的な中身や手続きの仕方など知らないという声も聞かれました。また、復帰に向けての不安や子育てをしながら仕事を続けるうえでの悩みや知りたいことがたくさんあることがわかりました。

一人を抱え込まない、とつづいていきたいと思います。

今回の育休復帰応援カフェで印象的だったのは「仕事も家庭のことも、いざという時に誰かに頼めるように日頃から情報共有をしておく」頼れるところ

は頼る。一人で両立するスキルより、助けて!と上手にいうスキルを磨くことが大事」という発言でした。

女性部長の「子育ては自分一人でするものではない。子どもに関わるのは周りも楽しみなので遠慮なく助けてもらっていい」の言葉で、ヘルプを出すことの重要性が共有されました。

完璧でなくてもいい、つらいとき、大変なときは誰かに助けをもらって大丈夫!子育ては自己責任ではなく、社会の責任、行政の義務だと思ってい

みんなで未来をひらく 教育を語るつどい

今年度はコロナ感染拡大予防を配慮して、オンラインで開催し、内田樹さんの「コロナ危機から見える、新自由主義の問題と教育の課題」の講演とリレートークが行われました。



内田樹さん講演要旨
アメリカは新自由主義で、何でも自己責任の国。医療も教育も商品として市場で購入するもので、行政の義務だと思ってい

「世間の現実には厳しい。子どものころから競争慣れしておけ!」も、間違っている。子どもは温室で育てるべきだ。そもそも学校は、親の暴力から子どもを守るためにイエズス会の活動として開始したものだ。世間の荒波から子どもたちを守り、保護するのが学校だ。

障がいのある子どものころからの学習

「子どもが女の子にべたべたと触って困る」「人目を気にせず性器を触ってしまふ」…皆さんは、日々の教育実践の中で、このような子どもの性に関する悩みみにつづつかることはないでしょうか。9月19日(土)、障害児学校部主催でオンライン形式によって開催された「このころからの学習」では、講師の永田先生から、性にまつわる悩みや疑問について科学的かつ愛に溢れた(一)アドバイスをしていただきました。

はじめに「日本の性教育の現状」では、日本が性教育の後進国であることが指摘され、性について語ることにタブー視されていること、とりわけ障がい児者に対しては、性教育は必要ないという風潮が強い「二重の差別・偏見」があることが語られました。さらに「性の問題行動は性教育要求の表れ」性教育の要は多様性・科学性・関係性」とテーマを掘り下げてお話ししてくださいました。さて、実際の教育現場では過度な接触や性器いじりなどの問題行動が見られ、対応に苦慮する教員の声が聞かれます。一体どのように対応すればいいのでしょうか?...まずは「どうしたら問題行動を止めさせられるか」ではなく、「どうしてそんなことをするのか」と問題の背景を探ることが解決への第一歩です。「だめだめだめはダメ」

性教育基礎講座

オンライン形式になり、開催時間が短縮されましたが、子どものころから学習に働きかけることが重要なのです。

後半の質疑応答では、参加者から「障がいの重い子どもにはどう指導すればいいのかわからない」「恋愛でトラブルを起す生徒にはどう対処すればいいのかわからない」といった悩みが寄せられました。性教育は障害の程度に関わらず必要なことや、性に関する問題に被害者被害者という意識をもつて、本人の生い立ちや環境に課題はないかと考えることが重要だというアドバイスがありました。



鈴木 昌

講師の永田三枝子さん
東京都立小学校特別支援学級教諭 2011 年退職。その後社会福祉法人清瀬わかば会青年学級講師。2017 年度より NPO 法人障がい児・者の学びを保障する会理事。2019 年 4 月より同事業所「モアタイムねりま」所長。「人間と性」教育研究協議会障害児・者サークル世話人。

「子どもが女の子にべたべたと触って困る」「人目を気にせず性器を触ってしまふ」...皆さんは、日々の教育実践の中で、このような子どもの性に関する悩みみにつづつかることはないでしょうか。9月19日(土)、障害児学校部主催でオンライン形式によって開催された「このころからの学習」では、講師の永田先生から、性にまつわる悩みや疑問について科学的かつ愛に溢れた(一)アドバイスをしていただきました。

静岡県教育のつどい

11月22日(日)
葦山文化センター(葦山時代劇場)
 9:30 ~ 清川輝基さん講演
 「スマホ社会の落とし穴 ~子どもが危ない~」
 (教職員互助組合 教育講演会)

13:00 ~ 分科会
 A 教育実践の分析、交流
 B 子どもの居場所づくり
 C コロナ禍で見えてきた学校の課題

参加費無料



「コロナで減った分を取り戻さなければ」では、勉強嫌いを作るだけ。学ぶことは楽しいと思わせることが必要だ。2年くらいやらなくても取り戻せるようになっていく。そのうち何とかなるでしょう、くらいの気持ちでいることが大切だ。

藤枝市平和展 青春の鼓動

8月9日(日)藤枝市生涯学習センターで、第42回藤枝市平和展を行いました。

コロナのため中止も検討しましたが、高校生たちの熱い要望に応え、厳重なコロナ感染予防措置を取り、1日で開催しました。

今年のテーマは「トンネルの向こうには素敵な世界がある」人とひとが出会ってつくる幸せな時間を。地元の高校の書道部、演劇部、合唱部OB、ブラスバンド部、若者が「青春の鼓動」平和だからこそ」を表現しました。

吉田恵美子さんの「デンマークに学ぶ 平和のための底力」のお話は、高校生向けにしてみました。

日本では、みんなと同じ、強い者の意見に従うくさんいますが、それらなく、幸せを感じる日常が誰にでもある状態にしたい。そのために自分は何ができるのか問うこと。そしてとりあえずやってみる。失敗したら、修正すればよいと高校生に語ってくれました。

平和とは、戦争がないだけではなく、幸せを感じる日常が誰にでもある状態のこと。日本では貧困や差別いじめで苦しんでいる人、過労死する人、孤独を感じている人がたくさんいますが、それらなく、幸せを感じる日常が誰にでもある状態にしたい。そのために自分は何ができるのか問うこと。そしてとりあえずやってみる。失敗したら、修正すればよいと高校生に語ってくれました。

